

平成20年度当初予算案の概要

平成20年2月
宮 城 県

予算編成の基本的考え方

日本経済は、企業部門の底堅さが持続し、景気回復が続くと見込まれているが、中小企業の中には景気回復が及んでいないところも多く、依然として地域間ではばらつきがみられる状況

歳入では、法人関係税を中心として県税の伸びが期待できないこと、地方再生対策の実施等によっても臨時財政対策債を含む実質的な地方交付税は微増にとどまったことから、結果として地方一般財源の総額は減少するため、引き続き多額の財源不足が発生

一方、歳出では、障害者自立支援制度や後期高齢者医療制度などにも法令に基づき的確に対処していく必要があり、社会保障関係経費は引き続き増加

このような極めて厳しい状況の下、平成20年度当初予算は、「宮城の将来ビジョン」の推進を加速化するため、「みやぎ発展税」の導入により財源を確保するとともに、新・財政再建推進プログラムに基づく取組に加え、更なる財源対策を講じることにより、限られた財源を効率的・重点的に配分することで編成

具体的には、多額の財源不足を解消するため、

- ・ 歳入では、県債の活用や基金の取崩し等による対応を行いつつ、土地売却や広告収入など、できる限りの収入確保に努めた上で、株式売却収入を計上
- ・ 歳出では、定員管理計画等による人件費の抑制や、公債費の平準化等を図るとともに、内部管理経費を中心に引き続き徹底した削減・抑制に努力

また、富県宮城の実現に向けて積極果敢に挑戦するため、「みやぎ発展税」収入による基金事業を意欲的に展開するとともに、「宮城の将来ビジョン」に掲げた基本方向を具体化するため、製造業の集積促進や観光、農林水産業の強化等の取組については、特に重点的に予算化

- 1 富県宮城推進基金事業
- 2 富県宮城の実現 ～県内総生産10兆円への挑戦～
- 3 安心と活力に満ちた地域社会づくり
- 4 人と自然が調和した美しく安全な県土づくり